

行歯会だより

第 205 号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

令和7年7月発行



- 1 札幌市の小学校フッ化物洗口事業の展開について
～新潟フッ化物洗口視察に参加して～(P.2)

札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課
歯科保健担当係長 太田 賢

- 2 「第74回日本口腔衛生学会 学術大会」への参加レポート(P.3)

名古屋市健康福祉局健康部健康増進課
斉藤 智也
【行歯会 事務担当理事】

- 3 行歯会第6期役員挨拶<その2> ～新任ブロック理事①～(P.5)

- 4 厚生労働省医政局歯科保健課への新任挨拶 (P.6)

愛知県保健医療局健康医務部健康対策課
課長補佐 歯科・栄養グループ班長 小栗 智江子
【行歯会 会長】

「歯っとサイト(歯科口腔保健の情報提供サイト)」掲載コンテンツ募集!

「歯っとサイト」<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、掲載コンテンツを募集しています。
掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛に御連絡ください。

行歯会だより読者コーナー



行歯会や行歯会だよりへのご感想、ご意見をお聞かせください。
投稿者に確認の上、行歯会だよりに掲載させていただく場合もあります。
<https://forms.gle/q4WYyFL2Tg2ya2oI9>

Ⅰ 札幌市の小学校フッ化物洗口事業の展開について ～新潟フッ化物洗口視察に参加して～

札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課
歯科保健担当係長 太田 賢



(1) はじめに

多くの皆様には初めまして、札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課歯科保健担当係長の太田 賢と申します、どうぞよろしくお願いいたします。また、今回、このような寄稿の機会を与えていただき誠にありがとうございます。

さて、本題に移る前に、「お前は何者だ」という声が聞こえてきそうなので、少しだけ自己紹介をさせていただきます。

生まれも育ちも札幌で、居住地が札幌でなかったことは、東京事務所に配属されていた2年のみという生粋の札幌っ子でございます。平成22年に事務職として札幌市に採用されました。その後、納税、人事労務セクション、地域振興、経済団体への出向等を経験し、令和6年度より、本市歯科保健担当部長である秋野先生率いる歯科保健担当係に配属となりました。これまでの経歴で、保健行政に携わった経験は新型コロナウイルス対応のみという状態でしたが、秋野先生はじめ、課、係の皆さんに支えられ、何とか歯科保健担当として2年目を迎えたところでございます。

そのような、歯科保健行政に対しては「ペーパー」の私が着任早々、「小学校でのフッ化物洗口を2学期中に開始する」というミッションを受け、まずは昨年度開始にこぎつけ、次の一手をと考えていたところで、令和7年5月16日にフッ化物洗口の聖地ともいえる新潟でのフッ化物洗口事業の視察が実施されるとお聞きし、是非にと参加をさせていただきました。

視察時にご説明いただいた内容について、札幌市の小学校におけるフッ化物洗口の現在とともにお話をさせていただきたいと思います。

(2) 新潟フッ化物洗口視察について

当日は、政令指定都市歯科保健担当学会議ののち、新潟市立笹口小学校へ移動しまして、新潟市生涯歯科保健計画、新潟市におけるフッ化物洗口全体の状況、新潟市立笹口小学校のフッ化物洗口の概要をご説明いただき、実際の洗口の様子等を動画で拝見させていただきました。

新潟市は平成24年度から洗口未実施の学校での導入を計画的に進め、令和2年度に実施率が100%になったとのことで、モデル校での実施が始まったばかりの札幌市としては、うらやましい限りでございます。

札幌市では財政的な問題等の課題が多く(後述)、持続可能な事業経営について、頭を悩ませ続けているところでございます。そうした中で、(現在の札幌市の状況からみると)低く抑えられた経費で、必要な人員が効率的に行っている状況であると感じました。

事業継続ができている理由として、説明の中では、①基本計画があること、②行政に専門職(歯科医師、歯科衛生士)がいること、③歯科保健の会議が定期開催されていること、④実績があること、⑤新潟大学(予防歯科専門)の協力があること、⑥学校保健計画に位置付けられ、校内体制が整っていることの六つが挙げられておりました。全てその通りだなどと思うところであります。

また、当日お話をうかがっておりますと、導入当初はご苦労が多く、保健所と教育委員会が協力して、各学校を回り、説明を行っていたという現場の生の声をお聞きすることができました。

(3) 札幌市の小学校におけるフッ化物洗口について

続いて、札幌市での状況をお伝えしたいと思います。

札幌市では、令和4年度、議員提案により「札幌市歯科口腔保健推進条例」が制定され、その中で、「市長及び教育委員会は、乳幼児期及び学齢期における口腔の健康づくり教育及びフッ化物の応用等の科学的根拠に基づく効果的な取組の推進に関し必要な措置を講ずるものとする。」と規定され、そこから、「第2次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画」により、フッ化物洗口の普及についての具体的な施策が開始されています。

この計画では、小学校において、「モデル事業の実施に取り組み、児童・保護者への丁寧な説明や学校・教職員の負

担軽減等に配慮しながら、今後の普及に向けた効果的かつ効率的な事業の実施方法について検討します。」とされ、まずはモデル事業に取り組むこととなっております。

このモデル事業は令和6年度から3年度の間で実施されることとなっており、現在4校がモデル校として選定されております。特に洗口液の作成、片付けを外部人材に委託することにより、教職員負担の軽減を図っていることに特徴があります。

現在の実施は、必要な物品等は保健福祉局が用意し、事前に学校に配置し、外部人材により①洗口液の調製、②必要物品の洗口場所への配置、③分注を行い、④教員の見守りの元、児童が洗口液とティッシュペーパーを取りに行き、⑤教員により洗口の実施、⑥洗口終了後、児童が自分でゴミ袋に捨て、外部人材により⑦ごみと用品をまとめ洗浄場所へ移動、⑧洗口用品の洗浄、消毒、⑨片付けを行い終了するという流れで行っています。

上記のとおり、実施に際しては、外部人材が大きくかかわっている状況で、ここはシルバー人材センターへの委託によって実施しております。

これは、教員の働き方改革の流れの中で、教職員の負担軽減はほぼ必須という状況から生まれたもので、実際各モデル校の洗口の実施に前向きな校長先生、教頭先生でも共通理解として過大な負担は難しいということでした。

そのため、市内約200校への普及に向けては、委託費をはじめとした財政的負担と教職員負担のバランス、委託先の担い手の問題等が課題として立ちはだかっている状況で、今後、検証の中で解決すべきものとなっております。

(札幌市でモデル事業が開始された際のニュース映像 <https://www.youtube.com/watch?v=Brtp552-y-k>)
です。秋野先生の美声もご視聴いただけます。)

(4) まとめ

今回、視察の中で新潟市保健所健康増進課の藤山先生が、「フツ化物の導入・拡大はタイミングも大事」という旨のお話をされていました。まさに、関係者の向く方向が一方向に定まった時に大きく前に進んでいくものなのかと考えさせられましたし、そのために関係者との信頼関係作りやできる限りの準備の大事さを改めて認識いたしました。

また、歯科保健行政に事務職として携わるというのは、勉強することが多く、難しい部分がありますが、特にフツ化物洗口事業は、各人の求める事柄が相反しかねない状況で、繊細な調整が求められており、事務職としても大変学びが多く、やりがいのある仕事であると思います。

今回の視察を開催していただきました、関係者の皆様に深く感謝を申し上げたいと存じます。ありがとうございました。



2 「第74回日本口腔衛生学会 学術大会」への参加レポート

名古屋市健康福祉局健康部健康増進課

斉藤 智也

(1) はじめに

名古屋市の斉藤智也(さいとうともや)と申します。令和7年度から事務担当理事(DX・アーカイブ担当)を拝命いたしました。行政入職4年目と若輩者ではございますが、改めてよろしくお願いいたします。

(2) 日本口腔衛生学会の詳細

さて、このたび第74回日本口腔衛生学会学術大会に参加いたしましたのでご報告いたします。本大会は令和7年5月16日(金)

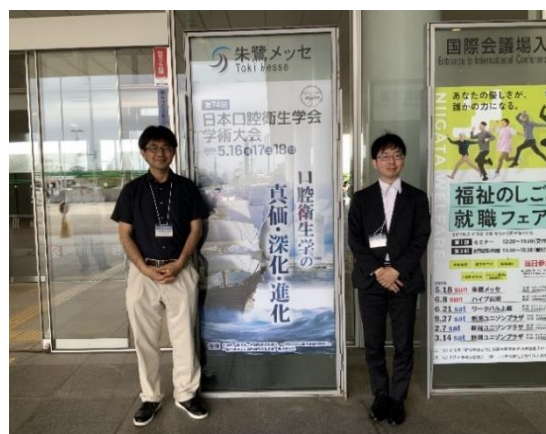


図1 田村副会長(左)と筆者(右) 撮影:小栗会長

から5月18日(日)の3日間、新潟県の朱鷺メッセにて開催されました。皆様もご存じのとおり、日本口腔衛生学会は口腔衛生学の進歩と発展を図り、もって国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的とした学会です。今回、私は初日のミニシンポジウム3「自治体検診と医療DXの展望」において発表を行いました。

(3) 発表セッションでの概要

座長である埼玉県立大学の植野正之先生と川崎市の大城暁子氏からお声がけいただき、「名古屋市における歯周疾患検診のDX対応」と題し、名古屋市のPHR対応や、自治体システム標準化への対応状況について発表いたしました。

愛知県は小栗会長を筆頭とした県行政の強いリード力により、DX対応に一定の道筋が示されているところではありますが、市の一担当者として、どのように対応しているかを紹介しました。

同ミニシンポジウムでは他に国立保健医療科学院の福田英輝先生、静岡県種の種村崇氏、厚生労働省の穴戸勇介先生からの講演があり、私自身も発表を通じてDXについての見識をさらに深めることができました。



図2 発表する筆者

(4) 発表セッション以外での参加所感

今回の学術大会では、シンポジウムを中心に各セッションを回りました。個人的に特に印象に残ったセッションは「シンポジウム2:口腔衛生学の展開に向けた若手・中堅研究者からの提言」と「教育講演2:最近の歯科保健医療施策の動向」でした。前者は研究、後者は医療にフォーカスした内容について拝聴し、日常の職務である「保健」とは異なる視点や最新の知見を得ることができました。また、各セッションの合間には普段メール等でやり取りを行う皆様と直接顔を合わせて意見交換をすることができました。

学術大会といえば「食」を楽しむことも醍醐味の一つです。私個人のこだわりですが、学術大会の際には大抵ランチョンセミナーに参加「せず」、近隣を散策して、地元のグルメを堪能することとしています(なお、今回は蕎麦とラーメン(写真)を食べました)。併せて、先述したシンポジウム2に連動した「若手の会」にも参加させていただきました。各大学の公衆衛生系の研究室の方々をはじめ、学部学生さんも交えた、キラキラとした意見に感銘を受けました。



図3 会場横のラーメン屋でのラーメン(ほうれん草増し)

(5) その他

学術大会とは別件になりますが、初日には政令指定都市歯科保健担当者会議が開催され、こちらにも参加しました。政令市という特殊な立ち位置の行政歯科職の皆さんとも意見交換ができ、大変参考になりました。本会議の主催である札幌市・新潟市の皆様にはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

(6) おわりに

日常業務に邁進するのみだと、つい視野が狭くなりがちのため、多角的な視点で業務に取り組めるように積極的に外の世界と交流をすることが重要だと改めて感じたことをお伝えしつつ、報告を終わります(なお、次回(第75回)の口腔衛生学会学術大会は沖縄県での開催とのことです)。

3 行歯会第6期役員挨拶<その2> ~新任ブロック理事①~

【北海道ブロック】

北海道上川保健所

高橋 収(歯科医師)



このたび北海道ブロックの理事を務めることとなりました高橋と申します。記事を書くのはNo.108(H28)、No.169(R4)に続いて3回目ですが、勤務地は毎回異なります。

広大な北海道では基本的に異動には転居が付き物で、当地で7か所目となります。生粋の新潟人である私は、行く先々で新たな発見・驚きがあって楽しく過ごしておりますので、機会がありましたら皆様にも北海道を訪れていただきたいです。これからよろしくお願いたします。

北海道保健福祉部地域保健課

道念 絵莉香(歯科衛生士)



行歯会の皆様、いつも貴重な情報をありがとうございます。北海道ブロックを担当します北海道保健福祉部地域保健課の道念です。

これまでに北海道の保健所2か所で経験を積み、現在の勤務地が3か所目となります。

日々の業務の中で感じた、ちょっとした気づきや工夫などを共有しながら、オンライン等を活用して、皆様とつながりを持てたらと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

【東北・甲信越・北陸ブロック】

秋田市保健所保健予防課

土倉 春加(歯科衛生士)



行歯会の皆様、はじめまして。

秋田市の土倉(つちくら)と申します。

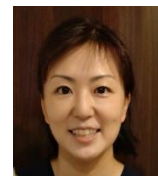
このたび、ブロック理事を務めさせていただくことになりました。

日頃より、行歯会の皆様からは貴重な情報を提供いただき、とてもありがたく思っております。行歯会だよりの編集担当となりましたので、皆様に執筆をお願いすることもあるかと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

川崎市健康福祉局

保健医療政策部健康増進課

大城 暁子(歯科医師)



行歯会の皆様、いつも貴重な情報をありがとうございます。今年度より関東Ⅱブロックの理事を務めさせていただくことになりました。

川崎市は市制101年目を迎えました。市が次の100年への挑戦や発展を目指すので、私も日々、成長を目指していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

【東京ブロック】

東京都北区保健サービス課

星野 智子(歯科衛生士)



東京都北区の星野と申します。歯科事業(主に母子)を担当しているごく普通の歯科衛生士です。

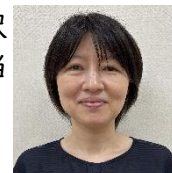
ご縁があって世話役から理事になりました。初めて出席した理事会では業務時間外で画面越しでも多くの参加があり、行歯会がより良くなるための議論が活発に交わされておりました。

これまで何気なく受け取っていたお便りやメールの重みを感じつつ、私も少しずつ学んでいけたらと思ひます。これからもよろしくお願いたします。

八王子市こども家庭センター南大沢

母子保健担当

近藤 明日香(歯科衛生士)



4月から東京ブロックの理事を務めさせていただきます、八王子市の近藤と申します。

八王子市は組織改正があり、歯科衛生士は保健福祉センターとこども家庭センターの兼務となりました。初めての理事で至らないところも多いですが、皆さんのお役に立てるように頑張ります。よろしくお願いたします。

4 厚生労働省医政局歯科保健課への新任挨拶



愛知県保健医療局健康医務部健康対策課課長補佐
歯科・栄養グループ班長 小栗 智江子

5月29日(木)に開催した愛知県の研修に、厚生労働省医政局
歯科保健課の小嶺祐子課長を講師としてお招きしました際、第6
期発足と会長就任の挨拶状を直接お渡しすることができました。
小嶺課長から「霞が関にもぜひいらしてください。」というお言葉を

いただきましたので、近いうちに役員数人で遠慮なく押しかけたいと思っています。

愛知県の研修についてもせっかくなので少しだけ紹介します。

令和2年度から県内の市町村・保健所の新任期とその指導者を対象に「歯科衛生士人材育成研修」を実施しています。県内に行政歯科衛生士が約100人、そのうち採用5年以内の新任期が4割、確実に世代交代が進んでいます。コロナ時代も対面を基本にオンラインも併用して乗り切り、1日コース年3回の研修体系が定着しています。本年度6年目を迎え、中堅期を対象に加えてリニューアルしています。

下の写真は、午後の講義前の小嶺課長を囲んで新任期さんたちと一緒に撮りました。午前の「先輩に学ぶ」シリーズの講師、長優子理事もいます。皆さんいい表情ですね!小嶺課長には、撮影会でワイワイと和んだ後、「歯科保健医療の動向、歯科保健医療業務指針と歯科衛生士の役割」をテーマに、90分ほどの講義と30分以上もかけて質問に丁寧にご回答いただきました。これからは歯科医療も意識しなくちゃ!とヤングな公衆衛生マインドにしっかり刷り込まれたと思います。

研修目標のひとつに、少数職種であるからこそ、所属を越えて気軽に聞ける仲間づくりを大事にしています。第2回は9月、第3回は11月に開催予定です。これまでも他県の方の聴講を受けていますので、ご希望の方はコッテリ名古屋メシやジブリパークを楽しみがてら愛知県へおいでください。



♪ 編集後記 ♪

「梅雨の季節の花、といえば紫陽花。ピンクの紫陽花には「元気な女性」や「強い愛情」といった花言葉があり、母の日の贈り物として人気だそうです。」などと綴っているうちに、季節は移ろい、蝉の声や、博多祇園山笠の掛け声が響き渡る季節になりました。今年こそは、予約困難な某店のかき氷を味わいたいです。(A)



慣れない編集作業でしたが、皆様に御協力いただき、本号を発行することができました。
執筆に御協力くださった方々に、感謝申し上げます。編集を通じて、勉強になることが多かったです。
猛暑で毎日汗だくですが、夏バテしないように頑張ります。(M)